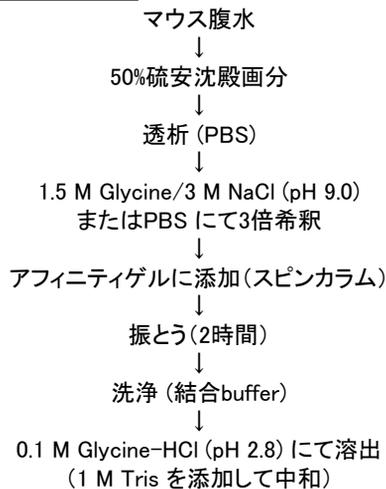
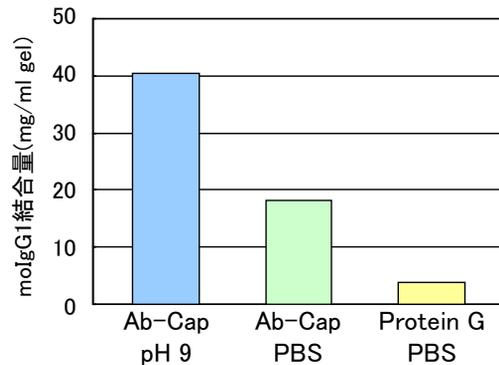


# Ab-Capcher™を用いた マウスモノクローナルIgG1の精製(1)

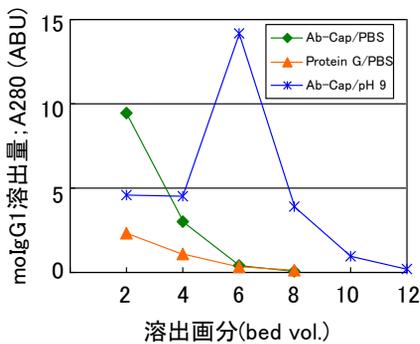
## 精製の流れ



## 各種条件下でのマウスIgG1結合量

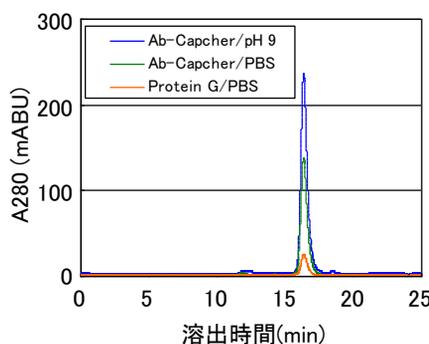


## 各種条件で精製したIgG1画分の分析



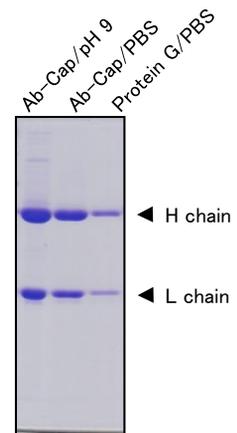
### 溶出プロファイル

溶出画分2 bed vol.ごとの  
IgG1溶出量測定 (A280)



### ゲルろ過HPLC

サンプル: IgG1 溶出画分10  $\mu$ l  
分析カラム: G3000SWXL  
buffer: 35 mM Na-Pi, 0.5 M NaCl, pH 7.0  
流速: 0.5 ml/min



### SDS-PAGE

サンプル: IgG1 溶出画分1  $\mu$ l  
ゲル: 12.5 % (Tris-Glycine)  
染色: CBB

マウス腹水を硫酸分画して50%硫酸沈殿画分をPBSあるいはpH 9のbufferで希釈し、Ab-Capcher または市販プロテインGゲルに添加し結合させた。Ab-Capcher はPBS中でプロテインGゲルの約5倍のマウスIgG1結合量を示した。結合bufferをpH 9にすることで、Ab-CapcherのマウスIgG1収量はPBSの約2倍に増大した。

pH 9 bufferを使用した精製ではマウスモノクローナル抗体の収量を上げることができるが、マウスIgG1の溶出が遅れるので注意が必要である。

## プロテノバ株式会社

〒769-2604

香川県東かがわ市西村1488番地1

TEL 0879-49-0702 / FAX 0879-49-0703

ホームページ <http://protenova.com>